

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長 砂金甚太郎

農林水産省生産局長 佐藤一雄

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修報告(後編)



酪農部だより

本会狭山工場の歩み

酪農トピックス／

酪農出前講座“うつくしまも～も～スクール”

2年ぶりに開催!!(仙台ほか)

グループ活動紹介／枝幸4Hクラブ

購買部だより／

自給粗飼料をもっと活用しよう!

日本酪農見て歩紀

(静岡県富士宮市 赤池牧場)



1

2013 January No.568



全国酪農業協同組合連合会

安定した酪農経営の継続により 地域の酪農生産基盤の維持、拡大を図る

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成25年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず、世界経済ですが、欧州ではEU加盟国の債務危機の影

響により景気低迷が長期化しており、EUはユーロ圏諸国の銀行監督の一元化といった財政・金融の統合強化の検討を開始しました。

米国も、景気対策減税の効果は少なく、2期目となるオバマ大統領はいっそうの景気対策と財政赤字の縮小という難しい舵取りを迫られています。

そして、中国やブラジルといった経済新興国では、景気が低迷する欧州や米国への輸出が減少したことから、総じて景気は減速傾向にありました。

国内経済では、円高や中国の反日感情の高まりから自動車や電気製品といった輸出企業の収益は悪化し、内需においても個人消費は伸びず、デフレ傾向も続くという閉塞状態でしたが、昨年末には自民党新政権への期待感から、円安が進み、株価も上昇しました。

一方、東北や関東では、東日本大震災からの復興の兆しはあるものの、実際には一向に進んでいないのが実情です。

また、東京電力原子力発電所の事故につ

いては、将来の見えない生活に悩む避難者や農産物の風評被害や買い叩き、遅々として進まない除染や被害補償等に今でも多くの人々が苦しめられています。

さて、昨年末に行われた衆議院選挙では、TPP交渉参加の是非が選挙の争点の一つになりました。

しかし、これまで、どれだけ国民が、TPP交渉の内容を正確に知らされているでしょうか。TPPは、貿易だけでなく、食品の安全、医療、雇用といった国民の生活を大きく変えるものですが、ニュース報道でもアジア太平洋地域の成長を日本に取り込むといった、耳触りの良い、しかし、まったく具体性の無い言葉が繰り返されていただけです。

新政権には、TPP交渉に関する正確な情報を国民に開示する責任があることは当然ですが、一部の参加国に利益が集まるような不平等や日本の国益を少しでも損なうような内容であれば、交渉参加の検討を即刻打ち切る勇気を求めたいと考えます。

弊会としては、TPPであろうが、二国間のFTA交渉であろうが、対外交渉における乳製品・牛肉の関税撤廃は一切認められません。

日本の酪農は、毎日、安全・安心で高品質な牛乳乳製品を安定して供給しているだけではありません。牧場で使用する資材や農機具の購入、集乳、牛乳乳製品の製造や物流において地域経済を維持し、多くの雇用を守っているのです。

また、牧草地や飼料作物作付地は国土の保全に貢献し、牛を通じて「いのち」の大切さをこどもたちに伝える教育の場を提供する等、国民の生活に多面的に貢献しているのです。

何よりも、農畜産物を増産し、食料の自給率を高めることは、国として国民の生活を守る最低限の安全保障政策であるはずです。

また、これからの世界は食料不足の時代に入ると言われています。

そうであれば、なおのこと日本の食料自給率は高め、他国に食料を依存しないことです。それこそが、対外交渉において日本の主権と主張を通すため、ひいては国益を守るために必要であると考えます。

弊会としては、今後とも、日本酪農政治連盟や他団体と協調しつつ、酪農対策の一層の充実や食料自給率の向上について、政府・与野党に強く要請してまいります。

さて、昨春秋、弊会は、我が国の酪農生

産基盤の維持、拡大のため、長期的視点に立ち、優先的・重点的に取り組むべき施策を明らかにした「全酪連将来ビジョン」を発表させていただきました。

これは、第九次中期事業計画の初年度である今年度が始まり、10年後の平成33年度を最終年度としており、

①会員農協・酪農生産者が地域に根ざした安定した酪農経営が継続でき、

②酪農後継者や新規就農者が従事しやすく将来に希望を持てる環境を作り、

③消費者が求める安全・安心で良質な国産牛乳を安定して供給すること、

の3点の実現を目指していくものであり、中期計画、単年度計画においては、より具体的な施策を定めてまいります。

酪農専門の全国連である弊会としては、今後とも全国の酪農生産者・会員の皆様のご理解ご協力、そして、行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、日本の酪農の振興と発展に寄与してまいりたいと考えております。

最後に、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。そして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 佐藤 一雄



新年あけましておめでとございませう。

平成25年という新しい年を迎えるに当たり、一言年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年は、一昨年に引き続き、東日本大震災による影響のほか、(株)東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う風評による損害等、畜産業も多大な影響を受けました。

本年は、畜産業が大震災前にも増して輝く年になるよう全力を挙げてまいり所存ですが、今後の畜産行政の推進に当たっての基本的な方針を何点か申し上げます。

大震災・原発事故からの復興

農林水産省としては、原発事故への対応として、安全な畜産物の供給に向けた適正な飼養管理と検査体制の強化、畜産経営の継続・再開に向けた適切な除染と汚染廃棄物処理等を関係省庁等と連携し実施するとともに、東京電力による早期かつ本格的な損害賠償への対応を行ってまいりました。大震災及び原発事故からの復興に向け、今後も引き続き取り組んでまいります。

生乳需給及び酪農経営の安定

生乳生産量は、生産者団体による増産の取組が進む中、堅調に推移しております。農林水産省としては、全国の生乳需給及び酪農経営の安定を図っていくことが重要であると考えております。このため、加工原料乳生産者補給金、チーズ対策、持続的酪農経営支援事業等の酪農経営安定対策を確実に措置するとともに、学校給食への国産牛乳の供給支援等を引き続き行つてまいります。

肉用牛等の畜産経営の安定

原発事故等の影響により、価格の低迷が続いていた牛肉については、関係者の皆様のご努力によって昨年に入ってから回復基調にあるものの、福島県産については未だ厳しい状況にあります。国産牛肉に対する風評被害を防止しつつ消費者の信頼を回復するためには、安全の確保が第一です。このため、農林水産省といたしましては、肉用牛の飼養段階における適切な飼養管理の徹底、出荷段階における牛肉の検査体制の強化などにより、安全な

牛肉しか出荷されない体制を構築しています。さらに、被災地産食品に対する消費者の不安を払拭しつつ消費拡大を図る観点から「食べて応援しよう!キャンペーン」を推進しているほか、各都道府県や流通団体に対しても、被災地産食品の活用促進や被災地産食品による特産品フェア等の実施を依頼しているところです。

また、肉用牛をはじめとする畜産経営の安定を図っていくためには、肉用子牛生産者補給金制度、新マルキン等の経営安定対策を安定的に実施してまいります。また、産地と食肉関係者が一体となり、顧客視点に立った生産・加工・販売の一連の工程を通じて新たな商品づくりを行う努力も重要であると考えています。

飼料自給率の向上

昨年の米国における干ばつ等の影響により、配合飼料の主原料であるとうもろこし等の国際価格が高騰しています。これに対し農林水産省としては、異常補てん基金の積み増しや発動基準の引き下げ、経営の維持安定のための長期運転資金対策などの対応を行いました。今後と

も国際価格動向を注視し、配合飼料価格安定制度の適切な運用等を通じ、配合飼料価格の高騰が畜産経営に及ぼす影響の緩和に努めてまいります。

また、飼料自給率の向上を図るため、自給飼料生産の外部化の推進等による国産粗飼料の生産拡大に加え、水田や耕作放棄地、地域で発生する食品残さなどの資源を有効に活用することにより、国産飼料増産に向けた取組を支援してまいります。

国際交渉への対応

包括的経済連携に関する基本方針に基づき、幅広い国々との戦略的かつ多角的な経済連携に係る検討を進めてまいります。その際には、畜産を含む農林水産業への影響に十分に配慮していくことが必要と考えております。

皆様御案内のとおり、我が国畜産業は、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給するのみならず、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じ、国民生活に重要な役割を果たしております。私どもとしましては、以上のような取組を着実に実施することにより、大震災及び原発事故からの復興に取り組みつつ、我が国畜産業の一層の発展、充実を図っていく決意であります。

皆様におかれましては、旧年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修

報告
—後編—



◀ ヴェルシナ農場



平成24年11月7日(水)から14日(水)までの6泊8日の日程で、(社)全国酪農協会主催「ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修」に参加させていただきました。

参加者は第41回全国酪農青年女性会議酪農発表大会発表者7名、全国酪農青年女性会議役員1名を含む総勢17名。

今月は後編をお届けいたします。

早朝にチェックアウトし、空港へ。シカゴを経由し、6時間かけてサンフランシスコへ向かいます。アメリカ大陸を横断する航路から見える風景は、いかにも大陸といった風情で大地の大きさを実感しました。到着後はサンフランシスコ観光。フィッシャーマンズワーフで遅めの昼食をとり、ツインピークス、ゴールデンゲートブリッジを見学しました。ハリウッド映画や米国ドラマでおなじみの光景に心躍るひと時でした。

チェックインののち、ホテルの会議室にて全酪連サンフランシスコ事務所生野所長より米国の酪農情勢についての講演です。この4日前には米国大統領



5日目
11月11日(日)

11/7(水)	成田空港よりカナダ(トロント)へ
11/8(木)	ナイアガラの滝とトロント市内観光
11/9(金)	ロイヤル・ウィンター・フェア視察
11/10(土)	サミットホルム農場(オンタリオ州)視察 クランデール&クランホルム農場(オンタリオ州)視察
11/11(日)	空路、米国(サンフランシスコ)へ 米国酪農情勢についての講演
11/12(月)	ヒルマー・チーズ工場(カリフォルニア州)視察 ヴェルシナ農場視察
11/13(火)	空路、サンフランシスコより成田空港へ
11/14(水)	夕刻帰国、解散



◀ 大久保監事の…ではなく
ブリッジの設計者の銅像

ゴールデンゲートブリッジ

選にてTPP推進派のオバマ大統領が再選したこともあり、参加者の関心は高いものでした。

2011年の米国酪農家戸数は約6万戸。これは日本の3倍にあたる数ですが、小規模農家を中心に一貫して減少中で、この10年で34%減となっています。経産牛頭数は約919万頭と日本の約9倍ですが、2000年以降は乳価に連動して増減を繰り返しています。一戸当たりの平均飼養頭数は153頭ですが、75%の農家が100頭未満。米国の経産牛の6割が飼養頭数500頭以上の農場に集中しています。一頭あたりの年間乳量は9,800kgで、70年代中ごろから上昇の傾向となっています。TPPで脅威と目されるアメリカの酪農ですが、情勢はなかなか厳しい状況のようです。08年～09年はリーマンショックの影響からどん底の状態で、その後あまり安定しませんでした。米国の生

乳取引価格は、乳製品価格に経費を考慮して算出される政府公表価格をもとに毎月決定されます。乳製品価格はその輸出依存度の高さから、変動しやすい国際相場をすぐに反映してしまい、結果として乳価の乱高下を招きます。近年は新興国での需要増による国際相場の安定や、米国内での過剰生産に歯止めがなかったこともあり、乳価は徐々に上昇しています。とはいえ、飼料コストの高騰などから経営自体は好転には至っていません。政府財政の厳しさから各種補助政策が打ち切られ、近く新農業法が制定されることもあり、しばらくは大きな動きが続くようです。

また、穀物状況についても説明がありました。トウモロコシの史上最大の作付面積と生産量が見込まれていた米国中西部では、7月以降の大雨により15年前の不作を下回る単収になりました。これにより相場は高騰中。乾牧草についても新興国の需要増大から生産地における日本の立ち位置は弱くなっています。作付面積自体も、価格の高騰する穀物に奪われる形で減少傾向にあり、今後も高値で推移しそうです。



6日 11月12日(月)

本日はチーズ工場と酪農家の視察です。

ヒルマー・チーズ工場はサンフランシスコから約2時間の場所に位置します。1914年にスイスから移住してきた12戸の酪農家によって設立されました。現在の従業員は760人。周辺220戸の契約農家から生乳を受け入れています。集められた生乳は受入段階で集乳トラックごとにサンプル検査を受けます。チー



ヒルマー・チーズ ビジターセンター ▶



ビジターセンターではチーズの直販もしている

ズ加工にはこの検査で抗生物質や体細胞数、脂肪などを検査します。広報の方によれば、州と国の定める基準を大きく基準をクリアした最高位の物しか使いません、とのこと。生乳はチーズからホエイプロテイン、ラクトースなどに加工されます。水源は井戸水で、環境には非常に配慮しており、排水は工場内の施設で再処理され、洗浄などに使われます。工場で使用する水の70%はリサイクルされるそうです。また、広報や子供への教育にも力を入れているとのこと、隣接するビジターセンターでは学校の社会見学を受けいれてお

▶牛舎遠景 600頭はいります



ており、2人の人員と67%の薬剤の削減になったそうです。搾乳前に待機場に集められた牛はスプリンクラーで乳房をきれいに洗われます。高温乾燥の気候のため、濡れても15分もすれば乾くそうです。これほど牛がいて乳房炎などのトラブルの管理はどうしているのか、と尋ねたところ、白血球数を計測するなどを細やかに管理

り、毎年15,000人の子供が訪れるそうです。セクターの展示物の中にはヒルマーの加工原料を使っている製品が展示されており、中には日本の製品がありました。こんなところで世界はつながっているものです。

続いてヒルマー・チーズ工場の契約農家の一軒、ヴェルシナ牧場の見学です。開業して80年の歴史ある牧場で、当日は5代目の経営主のティム・ウィックストロム氏に案内いただきました。飼養頭数は2,400頭で、すべてジャージー種。一頭あたりの1日の乳量は約30kgです。フリーバーン式の巨大な牛舎が4つにあり、そこに600頭ずつ収容しています。搾乳の際にはさらに300の群に分け、管理を行っています。パーラーは50頭立てのロータリー式で、300頭を47分で搾ります。搾乳要員は4人で、3人が前搾り、プレディッピング、カップの取付を担当し、4人が搾乳中のトラブル対応です。ポストディッピング



待機場 下から噴水して乳房を洗う



搾乳待ちの牛



搾乳風景

しているが、そもそも乳房炎はほとんど発生しない、との答え。日本では信じられないと返すと、それは湿気が悪いのでしょとのことでした。うらやましい話です。搾乳の見学もさせていただきましたが、一度に300頭の牛が芋洗いになる様は、圧巻を通り越して不安になるような。非常にインパクトがありました。大きくシステマチックな農場は、まさしくミルクファクトリーと呼ぶにふさわしいものでした。

この日の晩はサンフランシスコで自由行動です。同行した通訳さんお勧めのバーガーショップに行きましたが、注文ミスで大人のこぶしより大きなハンバーガーを三つも頼んでしまいました。よくもわからずYESというのはどこでもダメなものです。



終わりに

今回の視察では世界最高峰の共進会や、酪農先進地域の北米を視察できたことは貴重な体験になりました。ツアー参加者の方々とすべての関係者の皆様にごの場をかりてお礼申し上げます。

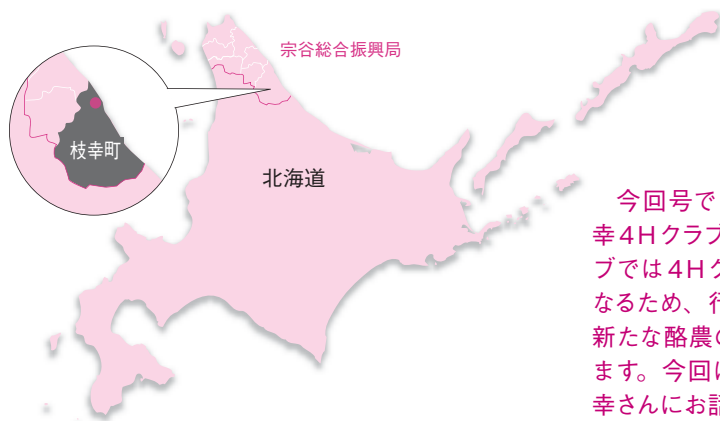
(全酪連 札幌支所 竹島啓介)



7・8日目

11月13日(火)・14日(水)

長いようで短いような海外視察も本日で終わり。復路も往路と同じ11時間半かけての長旅です。飛行機の発時刻が少し遅れましたが、ほぼ定刻通りに日本に到着しました。



今回号では、北海道枝幸郡枝幸町の枝幸4Hクラブの活動をご紹介します。同クラブでは4Hクラブ綱領のもと酪農後継者になるため、行事を通じて酪農技術の向上や新たな酪農の魅力発見の場を提供しております。今回は枝幸4Hクラブ会長の山崎紀幸さんにお話を伺いました。

「酪農家の息子(娘)」から「酪農後継者」へきっかけは？

概要

4Hクラブの綱領は次の通りです。

私たちは、実践を通じて自らを磨くと共に、互いに力を合わせてよりよい日本をつくるため、4つの目標を掲げます。

- 一、私達は、農村の改良と生活の改善に役立つ腕 (Hand) を磨きます。
- 一、私達は、科学的に物考えることのできる頭 (Head) を訓練します。



町内視察風景

- 一、私達は、誠実で友情に富む心 (Heart) をつちかいます。

- 一、私達は、楽しく暮らし、元気で働くための健康 (Eagles) を増進します。

現在の構成メンバーは、男性20名、女性5名の合計25名。年齢は30歳前後までの若いグループです。活動は年度計画を軸に、毎月の定例会、春秋冬の除角業務（夏場は牧草農繁期なので行事は控え目）、地元共進会のサポート、枝幸町内や町外の酪農場や酪農関連施設などの視察を実施、メンバー同士でお互いの牛舎を訪問することもあります。そして12月には宗谷青年農業者会議の発表大会に参加しています。

毎月の定例会

夕方の仕事が終わってから地元のコミュニティセンターなどに集まり、活動経過の打合わせや仕事のことを相談したり、遊びや恋人のことを話したりと幅広く情報交換しています。人が集まれば色々な話題や情報を得ることが出来るので、物事を見る視野が広がるのではないかと

春秋冬の除角業務

除角時期は春（5月）、秋（10月）、冬（2月）、除角を希望される生産者の依頼を受けてメンバーで訪問する仕事です。丸2日間で牧場軒数約20戸、除角頭数は150頭、年間約450頭の除角を行っております。訪問先の牛を見ながら調子の

思っているとのこと。しかし熱く語るばかりに午前様になることもしばしばとか。



交流会でカンパイ

グループ名	枝幸4Hクラブ
会 長	山崎 紀幸
地 区	北海道枝幸郡枝幸町
構 成	若手酪農家
メンバー数	25名
地区総戸数	127戸

▶ 除角



悪そうな牛は除角を延期するなどの配慮も欠かせません。

枝幸町内外での視察

自分の牧場以外の酪農家の視察は枝幸町内外に関わらず良い刺激になります。酪農環境はとても多種多様、地域、地形、牛舎、飼養頭数、草地面積、放牧の有無、牧草の施肥管理、牧草保管法、育成牛預託の有無、搾乳方法、機械類、堆肥処理、酪農関連施設などポイントはたくさんあります。枝幸町内でもオホーツク海沿岸の枝幸地区と内陸の歌登地区があり、この2つの地区の天候や気温にはかなりの差があるので自給粗飼料の生育にも違いが見られます。年に何度も行けませんが充実した視察が来ています。これまで視察を快く受けて頂いた方々に感謝するばかりです。



研修風景

宗谷青年農業者会議

12月には、宗谷青年農業者会議が開催されます。これは宗谷管内の青年農業者たちの発表会でアグリメッセージ部門、プロジェクト（地域活動部門・畜産経営部門）の3部門で審査され優秀賞は全道大会に進出します。枝幸4Hクラブも好成績を残しており、過去には全道大会で優秀賞を受賞する快挙も挙げています。若いアイデアや面白い取り組みも多くとても興味深いものなので今後もみんなで頑張っていきたいと思っています。

悩み うれしさ

山崎さんが会長になってからの悩みは、それぞれ異なる酪農スタイルをしているメンバー達に、いかに興味のあるテーマを提案すればいいのか？というものでした。楽しさがあり、かつ経営の一助になる取り組みとはどんなものなのか？メンバー全体の勢いを更に強くするにはどんな取り組みが必要なのか？と考え続けてきました。そんな時、メンバーの1人が共進会に興味を持ったことから急に真剣に取り組み始めましたが、とてもうれしかったと言います。どんな部分からでも良いので酪農にのめり込んでほしい。そうなれば自発的に考えて行動出来るようになり楽しくなってくるはず。実は山崎さんも、はじめは牛に興味はありませんでした。しかし、4日クラブの先輩に全道共進会に誘われ、



共進会準備

共進会場の繋留場で牛を見た時に衝撃が走ったそうです。牛の大きさ、綺麗さ、雰囲気の違いが違う生き物に見えたと言います。それ以降、仕事が集中し辛く感じた時でも「次に産まれる子牛は種雄牛〇〇の子だよな、どんな子牛が産まれるのか、どんな牛に育つのか楽しみだな」と考えて頑張っているうちに酪農にのめりこんでいった、と話してくれました。「ほんの小さな興味からでも、その積み重ねが酪農後継者へとなっていくきっかけになる。若手には色々な行事・イベントにどんどん参加して欲しい！行動あるのみ！」とおっしゃいます。大変忙しい中、快く取材を引き受けていただいた山崎紀幸さん、本当にありがとうございます。

本会狭山工場の歩み

1 風土

本会狭山工場は、関東平野のほぼ中央、埼玉県西南部の全域が武蔵野台地上にあり、市内を一級河川の入間川が流れる狭山市でも川越市に隣接し、工場のすぐ前を西武新宿線が走り、入間川の流域の田園地区の残る優れた環境に立地しております。付近一帯は、本会狭山工場だけでなく、本田技研をはじめとする大企業で構成される工業団地ですが、以前は見渡す限り、市名の由来にもなった全国的に有名な狭山茶の畝々や、川越芋で知られる甘藷の畑が連なり、もともとはこの工場敷地内にもかかわらず芋穴などの名残もあったそうです。

2 工場建設の経過

当工場の敷地は、日本住宅公団が造成した川越狭山工業団地の一面を本会が昭和41年9月に飼料工場用地として取得したものであります。

3 操業開始時の状況

しかし飼料工場としてはやや不向きな立地条件にあったことや、その後の酪農情勢の変化等の紆余曲折があり、酪農専門全国連としてのビジョンと、我が国将来の酪農乳業及び乳製品消費動向など長期的な展望に立つて、チーズ専門工場が建設されることとなり、昭和45年8月に建設事務局が発足され、同月着工、12月に完成取得、翌年2月には試験操業、同年3月から本格操業が開始され現在に至っております。

昭和46年3月の操業開始時の設備といえば、チヨッパー・ストンローラー（原料粉砕機）が各一基、ケトル（チーズ溶融釜）一基、充填機一基程度とチーズ製造設備として最低限のものしかありませんでした。また、当時は工場長も新東京工場との兼務であり、当工場の専任職員はわずか6名というスタートでした。

また、最初は、製造の技術的な問題に突き当たり、その解決に時間を費やされ、納期に間に合わないなど苦労の連続であったようです。また、初年度はテーブル物としての知名度・販路の関係から年間70t程度（現在の1・75%程度）という状況でした。

製造設備の関係や、少人数であること等もあったにせよ、その操業度や収益性にも多分の改善の余地があり、何とか改善を図らなければならぬということでは頭を悩まし種々検討し、プリンや業務用チーズなど様々なことに取り組みました。しかし、設備の応用をはじめ何分にも経験の浅

いチーズ製造にあたっては、難問に直面しては研究に研究を重ね、苦心（きんしん）の連続の末、開発に打ち込んだ日々が今日に繋がっているとも言えます。

また、当工場敷地は区画整理されていたものの、造成後本会取得時までの間、何年間も放置されており、建物が建てられたところ以外は大人の背丈ほどの芽や雑草や小さい木々が生い繁り、現状からは想像もつかない、一見荒



野を思わせるようなところでした。当初は少ない工場の職員が薙刀のような大きな鎌で草を刈り払い、途中蜂の巣に出会っては蜂の一斉攻撃を受けたり、またある時は結城センターから牛を借り受けて放ったものの、あまりの草に牛も驚き、遂には草を咬むことにも飽き、行方不明となり、これを全員手分けして方々探し廻るといって、とても笑えないハプニングもあったようです。こうして炎天下の下の開墾作業な



4 狭山工場の歩みと今後について

ど数々の悪戦苦闘の末、整備された緑地が現在の工場にも残されています。

日本国内のチーズ販売量は2010年度261千t、2011年度284千

t（前年比108.8%、（内家庭用124千t、業務用160千t）と過去最高を記録し、うちナチュラルチーズの輸入量は205千t（前年比108%）と2012年度に入ってもこの需要は順調に伸長しており、日本人一人当たりのチーズ消費量は欧米と比較するとまだまだ少なく今後の伸びが期待できる状況にあります。

また、家庭用プロセスチーズは、2011年度は合計61.8千tとほぼ横ばいながら、堅調であり、うちスライスチーズが31.6千tと全体の51.1%の構成比を占めている状況です。なおベビーチーズが11.7千tと構成比18.9%・前年比105.4%とここ数年伸びを見せております。そして、他食品同様に量販店等のPB（プライベートブランド）化が進んでいることと、特にスライスチーズでの新規参入業者の台頭などにより価格競争が激化しており、既存大手メーカーは工場の更新を進めるなどの動きが伝えられています。

そんななか今年、本会狭山工場は操業より42年を迎えることができました。直近では、まず品質管理並びに製造工程管理体制の強化に取り組んでおり、クレーム発生状況についても改善の成果が表れつつあります。そして、工場の経営管理としては、製

国内家庭用プロセスチーズの販売状況

単位:t、%

	2010年度	2011年度	構成比	前年比
スライス	31,900	31,600	51.1	99.1
ベビー	11,100	11,700	18.9	105.4
ポーション	9,600	9,800	15.9	102.1
カルトン	700	700	1.1	100.0
切れてる	3,900	3,800	6.1	97.4
キャンディ	2,000	1,900	3.1	95.0
スティック	400	400	0.8	100.0
その他	2,200	1,900	3.1	90.5
合計	61,800	61,800	100.0	

造コストの計数管理や労務管理の徹底、機械化の進行などを進めることにより、採算性という最も厳しい課題にも積極的に取り組んでいるところです。

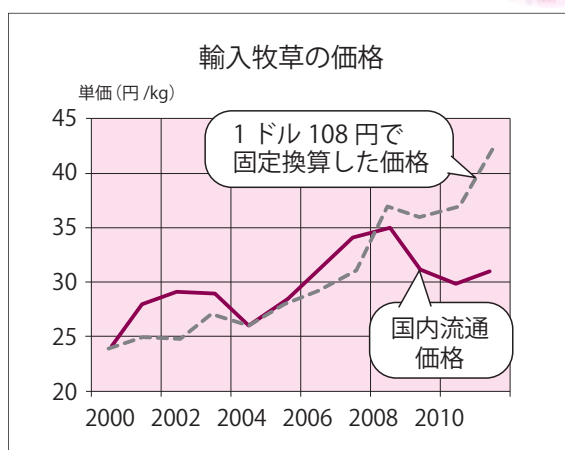
近年のデフレ経済の進行による販売環境の悪化という逆風は、本会だけで対処できる問題ではありませんが、まずはしっかりと商品を作

るといふ基本を整え、操業当時から何事にも協力なくして成し遂げられない狭山工場ならではの考えから生まれた職場風土を受け継ぎ、厳しい中でも一致団結し今後も国産チーズの普及・振興による生産物の有利販売という目的を果たすべく、今まで以上に取り組みを強化してまいります。

自給粗飼料をもっと活用しよう!

米国の干ばつの影響を受け、トウモロコシをはじめとした穀物の価格が再び高騰し、7月には史上最高値を更新しました。穀物の価格は、平成18年以降、バイオ燃料の需要や新興国の需要増加で高値を維持しています。また、為替に救われている面もありますが、輸入粗飼料も米国の草作付面積の減少や中国・UAEの買付量増加により、価格は上昇傾向にあります。一方、国内の飼料作物の栽培面積は、平成4年以来、20年近く減少傾向にありましたが、穀物・輸入乾草の情勢を受け、

平成19年度からは少しずつではありますが増加に転じています。中でも作付面積の伸びている草種は、トウモロコシと稲ホークロップサイレージ(WCS)です。いうまでもなくトウモロコシは、圃場生産性が高く、嗜好性もよく、面積当たりの産乳可能性が最も高い作物であり、圃場当たりの飼養可能頭数が最も多い作物です。したがって、限られた圃場面積で、より多くの頭数を飼おうとした場合にはトウモロコシを選択することになります。獣害や病害、また湿害で栽培が不可能な場合は別として、トウモロコシの栽培を検討するのは当然の成り行きです。というのもトウモロコシは、本来栽培しやすい作物であることに加え、収穫の機械体系が整備されており、地



(農林水産省HPより)

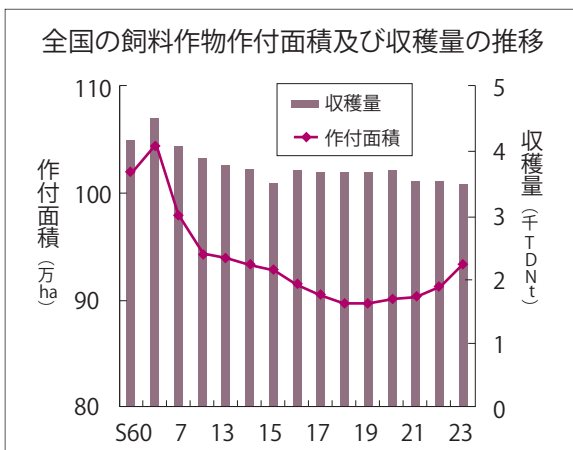
域にに応じて早生から晩生まで幅広く品種を選べることから、我が国のはとんどの地域で栽培することができまます。さらに西日本の多くの地域で二期作が可能なのともあり、栽培面積の増加につながってきたと思われます。

トウモロコシとならび、稲WCSの栽培面積も、この10年で著しく伸びています。元来、稲は我が国の基幹作物であることから、栽培のノウハウを持っている耕種農家にスムーズに受け入れられ、栽培が浸透していき、最近では広域流通するまでになってきました。稲WCSの増加の背景には、もともと嗜好性が高いことや作業機械の進化、給与事例が集まってきたことが背景にあり、水田転作の施策にのってきただけでも面積増加の一因です。転作が進む中、耕種農家ではできれば稲を作りたい方々が多くなります。このような情勢の中、さらに耕畜連携が進めば、飼料稲は日本独自の飼料作物として定着していくと思われます。

また、コントラクター組織が整備されている地域程、トウモロコシの栽培が多くなっていますし、稲WCSにしても、耕種農家が作業を担っている地域が多く、コントラクター組織が面積拡大と品質向上に大きく寄与しているものと思われまます。今後の自給粗飼料の利用拡大には、このようなコントラクター組織の整備・充実が欠かせない要素の一つとなるでしょう。また、コントラの組織化が困難な地域でも現有の機械の活用や共同利用

で機械償却コストを低減し、自給粗飼料生産をすることで、生産コスト低減を目指すことは今後の重要課題となります。耕作放棄地や遊休農地が増加している中、これらの土地を有効に活用できるパワーのある産業は、唯一酪農であると言われています。自給粗飼料の生産は、コスト低減だけでなく、堆肥の還元にもつながり、資源循環型の農業が可能となります。

冒頭述べたとおり、今後とも飼料穀物・輸入乾草の価格上昇・高止まりが懸念されています。トウモロコシ・稲WCSをはじめ、飼料作物・牧草栽培が可能な圃場や地域があれば、前向きに取り組んでいく情勢になっていることは確かです。5年後、10年後の酪農経営を考えて、チャレンジしていきましょう!!



(農林水産省HPより)

仙台
支所発

酪農出前講座 “うつくしまも～も～スクール” 2年ぶりに開催!!

— 福島県酪農青年研究連盟・NPO法人福島農業復興ネットワーク共催 —

2年ぶりの開催となった酪農出前講座“うつくしまも～も～スクール”復活第1弾として11月1日(休)に「白河市立みさか小学校」、20日(休)に「喜多方市立上三宮小学校」、30日(金)に「須賀川市立西袋第2小学校」の3校で開催いたしました。

「も～も～スクール」を開催するにあたっては、「こんなときだからこそ、開催したい!」と、昨年も開催を目指しておりましたが、様々な問題や準備が整わない点もあり、開催を見送りました。今年に入り、「是非、今年度の開催を!!」と昨年実施できなかったこともあり、年度途中ながらも開催へ向けて準備が始まり、3校の小学校や関係機関との協力により、復活第1弾として、「も～も～スクール」を福島県酪農青年研究連盟・NPO法人福島農業復興ネットワークとの共催で開催する運びとなりました。

そして、今年も搾乳牛「マーベリック ハンク シン号」を快く提供頂いた福島県農業総合センター畜産研究所、飼養管理を快く受けて頂いたミネロ



▲ も～も～スクール「マーベリック ハンク シン号」

ファームはじめ関係者の皆様には、開催に向けてご支援・ご協力頂き、誠にありがとうございました。

復活第1弾となった「も～も～スクール」では、3箇所の小学校で200名あまりのこどもたちが、「牧場の話」、「バター作り体験」、「仔牛のふれあい」、「搾乳体験」を通して、『食』と『命』のつながりを学び、「命」の大切さ・温かさを感じてもらいながら、こどもたちの元気な歓声や笑顔に出会えました。(W.H)

参加小学校の様子



白河市立みさか小学校

◀▼ バター作り体験



搾乳体験 ▲▶



喜多方市立上三宮小学校



須賀川市立西袋第2小学校

◀ 子牛とのふれあい



▲ 牧場の話

東京
支所発

第3回 東京支所管内 「会員女性職員研修会」開催

今年も会員女性職員の酪農生産現場に係わる知識を深め、職員間の交流を図るために東京支所管内の会員女性職員を対象とした研修会を、10月18日(木)～10月19日(金)に箱根にて開催いたしました。

第3回となった今回の研修では、1日目に日産合成工業(株)の御殿場工場の視察、その後『添加物について』の研修会、2日目には2008ミス・ユニバース・ジャパンで第2位に輝いたトータルビューティープロデューサーの本名由香里さんをエクササイズ講師に招き、『あなたは自分の「美」に自信はありますか!?』～ハッとさせるビューティーウォーキング&ポージングでいつまでも美しく～と題し、講演会を行いました。

1日目の御殿場工場視察では、事務職員としては普段の業務ではなかなか関わることもない飼料添加物の製造現場を見学させていただき、日頃取り扱っている製品の製造工程を知ることができました。見学後には日産合成工業の職員の方々が『乳牛が必要とする微量栄養素について』と題し、ビタミン、ミネラル、抗酸化物質について説明をして下さいました。中でも抗酸化物質のアスタキサンチンの説明は印象深かったです。名前はよく耳にしていたのですが、人間用としても多様な商品が販売されているほど高い抗酸化力があることを学びました。

2日目の本名由香里さんによる講演会では、ミス・ユニバース ジャパンの選考方法やトレーニング方法、効き顔（より美しく見える角度）、美しいウォーキング・ポージングといった大変女性の興味



▲ 日産合成工業(株)前にて



▲ 飼料添加物の研修中

を引く講演を取り入れていただき、実際に身体を動かしながら楽しく学ぶことができました。せっかく実践をして学んだので、日頃の姿勢、歩き方から変えてみたくなりました。

今回の研修会でも、直接お会いする機会の少ない会員職員の方々と交流できたことを、大変嬉しく思います。会員職員の方々に少しでも楽しい時間を過ごせたと感じて頂ければ幸いです。

今回も大変お忙しい中ご参加頂きまして、本当にありがとうございました。(N.K)

講師の本名さん ▶



▲ ポージング!で集合



東京
支所発

平成24年度関東甲信越酪農青年女性会議 研修会開催

11月27日(火)東京スカイツリー周辺地域にて、関東甲信越酪農青年女性会議（野村栄一委員長）の平成24年度研修会が開催されました。今年5月に開業した東京スカイツリーに入場したい、との会員の皆様からのご要望が強かったため視察先に決定されました。展望デッキへの入場予約が困難な状況だったことから、入場券が確保できた時間に合わせた研修会となり、懇親会を研修会前に行うという変則日程による開催となりました。

当日は約120名の参加を得て、各地より日の出桟橋に集合し、東京の水上物流の研修として水上バスを利用して、レインボーブリッジ・お台場・豊洲を川面から視察しながら隅田川を浅草方面に移動しました。

浅草で下船した後、吾妻橋を渡り特徴的なオブジェで有名なアサヒビール本社ビルにあるレストラン「フラムドーム」にてまずは懇親会です。小森副委員長による開会宣言、野村委員長・川辺事務局長からの挨拶に続き、嶋田副委員長による乾杯の発声により懇親会が始まりました。参加者の皆さんは隅田川の水上交渉視察で冷えた体を工場直送のビールやジュース、お料理をお腹の中に収めつつ、地域の枠を超えて酪友同士の懇親を深めておられました。

本命のスカイツリーの直ぐ隣という場所でもあり、懇親会の途中でスカイツリーへ移動される方が出るなど、皆さんの期待が高まっています。

スカイツリー周辺施設「東京ソラマチ」には、研修参加者が所属する酪農組合や県のアンテナショップも出店しており、消費者への乳製品消費拡大への働きかけも研修しました。

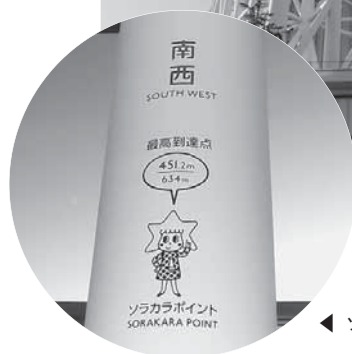
いよいよ入場時間となり皆さん超高速エレベーターで僅か50秒、地上350mの展望デッキへ入場です。前日までの荒天とは打って変り雲ひとつ無い快晴です。富士山・男体山・筑波山なども遠望でき、皆さんそれぞれに絶景を楽しまれていました。更に上を目指し、高さ451.2mの展望回廊に足を伸ばされた方も大勢いらっしゃいました。

ツリー入場後は広い「ソラマチ」で両手に抱えきれないほどお買い物された方もあり、それぞれに有意義な一日を過ごされました。

(N.H)



▲ スカイツリー



◀ ソラカラポイント



◀ 水上バス乗り場



▶ スカイツリーを撮影中

名古屋
支所発

愛知県酪農農業協同組合青年女性部主催「酪コン」開催

12月1日(土)、愛知県豊橋市「野口牧場」において、酪農家とのお見合いパーティー「酪コン」が開催されました。

男性11名、女性13名の参加をいただき、開催された「酪コン」は、バター作りに始まり、様々なイベントが行われました。

「牛肉当てクイズ」では、男女3名ずつのグループに分かれ、高級国産牛や外国産牛を食べ比べ当てる

クイズでしたが、参加者には難しいようでした。

また、「牛乳飲み比べ対決」では、成分無調整乳、成分調整乳、低脂肪乳の3種類から当てるクイズです。この正解率は非常に高く、参加者からは正解して安堵の声が聞かれました。

昼食は、バーベキューを行い地元豊橋で採れる新鮮野菜や愛知県産のお肉を召し上がってもらい、参加者には満足していただけたのではと思います。



▲ グループ活動



▲ バーベキュー様子

名古屋
支所発

愛知県酪農農業協同組合青年女性部 白熱！全体研修会

12月14日(金)、愛知県岡崎市の「愛知県畜産総合センターふれあいドーム」において、愛知県酪農農業協同組合青年女性部（青木 隆明部長）の全体研修会が開催されました。

愛知県の各地域から約50名の参加があり、「ソフトバレーボール大会」と「コサージュ作り」が行われました。

ソフトバレーボールは男女混合で6つのチームに別れ、真剣にバレーボールを追いかけていました。



▲ 白熱したソフトバレー大会



▲ コサージュ作り



◀ 具だくさんの牛乳鍋

当日は一段と冷え込んだ気候でありましたが、参加者は汗だくになりながら、プレーしていました。

点が入るとハイタッチで喜び、負けるとうなだれるというまさに一喜一憂そのもの。コートの上ではコサージュ作りが行われ、参加者は細かい作業を真剣に取り組んでいました。

お昼には牛乳をたっぷりを使用した「牛乳鍋」を参加者にふるまい、体を温め、その他には、参加者の手作り料理が持ち込まれ、おなか一杯いただき、親睦を深めて、本研修会は終了しました。

名古屋
支所発

元気いっぱい「わくわくモーモースクール」開催

12月7日(金)、東海酪農業協同組合連合会(伊藤敏之代表理事長)主催の「わくわくモーモースクール」が開催されました。

今回の訪問は、愛知県西尾市立室場小学校。1年生から4年生の142名を対象とし開催された本教室は、「座学」と「バター作り体験」「プチレアチーズ作り」「牛乳試飲」などの体験に取り組んでもらいました。

「牛のなるほど百科 牛乳が届くまで」と題して開催された教室では、酪農家の小笠原和美さん、北村克己さん、清水ほづみさんが牛の模型や資料を使いながら、牛の特徴や酪農業について、子供たちに説明しました。

説明の中で、1日におおよそ30kgの「生乳」を搾るということに子供たちは驚愕の声を挙げていました。また、「乳牛」が食べる飼料内容についても、実際に触れ、臭いを嗅ぎ、勉強していました。

もうひとつの授業は、中央製乳株式会社の中村浩



▲ プチレアチーズ作り

章執行役員製造部長の講義のもと1～2年生に「プチレアチーズ作り」、3～4年生に「バター作り体験」を行いました。また、全学年を対象に成分調整牛乳と無調整牛乳の飲み比べを行いました。

プチレアチーズ作りでは、ビニール袋にクリームチーズ・ヨーグルト・缶詰みかんを入れ、それを丁寧に手で潰し、それをクラッカーにつけ、おいしそうに食べていました。

バター作りは、あらかじめ冷やして置いた生クリームが入った滅菌ビンを一斉懸命振り、挑戦しました。

出来上がったバターを試食した子供たちは、生クリームから出来るバターを不思議そうに眺めながらも、満足した面持ちで試食していました。

「学校給食用牛乳」を通じて、子供たちが酪農について、興味や理解を深めてもらえれば幸いです。



▲ バター作り

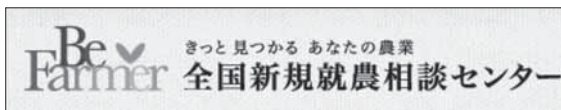
新規就農を希望される方、経営委譲を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。
全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連ホームページのトップ ➡ 右下リンク ➡

新規就農情報〔社酪農ヘルパー全国協会〕
新規就農情報〔全国農業会議所〕



名古屋
支所発

平成24年度中部酪農青年女性会議研修会

11月27日(火)、平成24年度中部酪農青年女性会議研修会が愛知県名古屋市「ウイंक愛知」で開催されました。

今年度の研修会は、講師に全酪連購買部酪農生産指導室 三輪達雄特別嘱託員を招いての研修会です。

研修会内容は「ブータン王国の婦系家族を参考にした繁殖の改善について」です。

参加者は、三輪嘱託員のブータンでの農業指導と体験談を経営に活かそうと熱心に受講されていました。



◀ 講師の三輪特別嘱託員

▲ 会場の様子

平成26年1月から、 記帳・帳簿等の保存制度の 対象者が拡大されます

個人の白色申告書のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の金額の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税の申告の必要がない方を含みます。)について必要となります。

記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp>)に掲載されていますので、ご覧ください。

詳しくは、最寄りの税務署にお問い合わせください。



▲ 牧場主の赤池 昭悟さん

No.236

赤池牧場

静岡県富士宮市

地域に密着した酪農を

地域の紹介

県の東側に位置し、山梨県に隣接している静岡県富士宮市。人口約13万6千人の中核都市です。

富士山の西南麓に広がる当市は、富士山をご神体として平安時代に造営されたと言われる富士山本宮浅間大社の門前町として繁栄してきました。浅間大社近くには、風情がある参道があり、趣が漂います。

気候は、温暖で年平均が16・1℃と過ごしやすいですが、冬は氷点下まで下がる場合があります。富士山の雪解け水を水源とする豊富な湧き水や、富士山全土が見渡せ、夏は避暑地として観光客が絶えない朝霧高原があります。



近隣からは富士山が望める



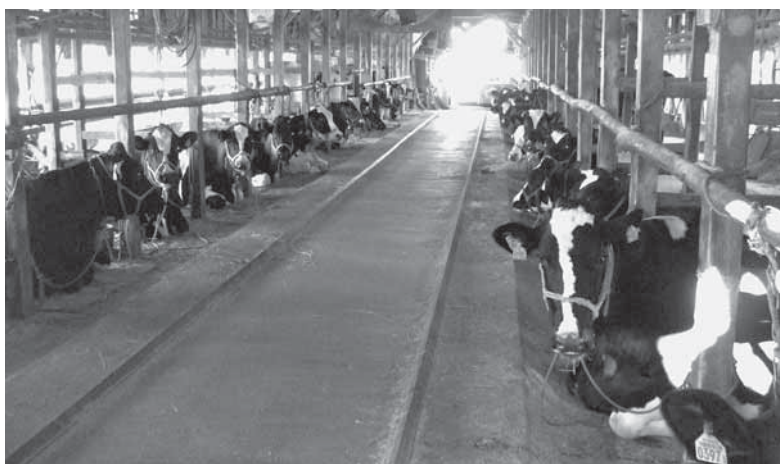
原があり、自然には恵まれています。朝霧高原は、冷涼な土地柄であるため、酪農が盛んな土地でもあります。また、田貫湖や白糸の滝など観光資源も多く、最近では、B級グルメとして有名になっている「富士宮やきそば」の発祥地です。

農業は、酪農、富士山の湧き水を利用したニジマス養殖、ワサビ栽培が盛んです。工業は、輸送用機械関連や化学工業・医療機器などを中心となっています。

今回ご紹介します赤池牧場は、富士酪農業協同組合（赤池昭悟 代表理事組合長）に所属しています。平成23年度の年間出荷乳量は、3,151tです。

牧場の経緯

赤池牧場は、ご主人の昭悟さん、奥さんのけい子さん、息子さんの紀幸さんの3人家族です。



牛舎内

赤池牧場の経緯は、肉牛を飼養していたところから始まります。もと、富士宮市周辺では、たばこや養蚕が盛んだった地域だそうです。昭悟さんのご両親が肉牛を飼養していましたが、乳牛は飼養していませんでした。そのため、昭和44年に乳牛1頭から営農を開始されました。就農当時は、多々トラブルが発生しましたが、がむしゃらに対応されてきたとか。特に苦労したのが、給与メニューのトラブルだそうです。技術的にもわからない点が多かった

ため、乳牛についていろいろ勉強されたそうですが、机上論と現場の違いを実感されたそうです。

昭和45年に奥さんのけい子さんと結婚され、2人で16頭ほどを飼養していました。昭和53年に現在の牛舎を建築され、昭和56年に増築され、現在の40頭牛舎になりました。平成14年からは、息子さんの紀幸さんが従事され、現在の3人体制になっています。

牧場の概況

牛舎はパイプライン式の対頭つなぎ牛舎です。現在の飼養頭数は、経産牛45頭、育成牛20頭の計65頭です。草地面積は、1町歩。自給飼料は、リードカナリーとひえです。

作業形態

経営全般は、昭悟さんが担当。

紀幸さんが飼料担当、けい子さんが育成管理と堆肥の販売を担当。

搾乳は、昭悟さんと紀幸さんの2人で担当しています。

給与内容

給与内容は、配合飼料（本会…Gパワー）6 kg、カナダチモシー6 kg、アルファルファ3 kg、発酵ビール粕8 kg、大麦4 kg。発酵ビール粕は、ビタミン、ミネラル、カルシウムの添加剤を攪拌機で混ぜ、給与さ



搾乳室

れています。給与回数は、朝、晩の2回給与です。

堆肥への取り組み

赤池牧場は、堆肥の取り組みに特に力を注いでいます。

水分調整剤として、入れるものは2種類。

1つ目は、まいたけの廃菌床。2つ目は、てんぷら油。これらを入れることで、発酵が早まるそうです。

まいたけの廃菌床は富士宮地域の場所まで週に1回取りに行きます。てんぷら油は、近所の飲食店からもらい利用しています。まいたけの廃菌床とてんぷら油はバンクリーナーの段階で巻くことでよく攪拌され、また、てんぷら油はバンクリーナーの



まいたけの廃菌床

チェーインの維持にもつながり、一石二鳥とのこと。

堆肥は、1日で82℃～83℃まで急激に温度上昇させます。これは、ゆっくりな温度上昇では、成分がよくなるため、急激に温度を上昇させることで良質な堆肥を生産します。また、1日に1回は攪拌し、温度を80℃にするようしています。

完成した堆肥は、堆肥施設で半年間熟成させたのち、堆肥舎で天日干しをすることで、紫外線殺菌を行うそうです。これを行うことで近隣への臭いも少なくなります。

このように堆肥に力を入れ取り組



富士山を望む堆肥舎

まれていることで、静岡県畜産堆肥共励会においては、静岡県知事賞を平成14年、17年に受賞されており、また、平成24年においても受賞され、合計3回の県知事賞を受賞されており、静岡県議会議長賞も2回受賞されており、

富士宮市堆肥共励会においても、富士宮市長賞3回、富士宮議長賞2回、富士宮市共励会長賞3回を受賞されており、赤池牧場の堆肥に対する評価は非常に高く、堆肥販売においては、九州にまで顧客がいるとのこと。

昭悟さんは、堆肥を購入してくれ



トランスバックでの出荷

今後の夢について

平均乳量45kgを目標にし、頑張っている地域が近隣にあるため、富士酪農業協同組合としても負けないよう、お客さんには、堆肥散布について丁寧な指導もされており、作物によってどの程度、散布すればいいか適切にアドバイスされています。

良質な堆肥を作るために、乳牛に給与する乾牧草までに力を入れており、種子が残らないような良質な乾牧草を購入するようにしています。

堆肥は15kgの袋販売とトランスバックの販売の2種類で、顧客が多いことから過去には堆肥がなくなるようなこともあったとか。



堆肥施設【天日干し】

最後に

富士山がきれいに望める赤池牧場の景色は絶景でした。

1頭から始めた酪農を現在の体制までに築くには、様々なトラブルが絶えなかったそうです。

「基本に基づいた飼養管理の勉強をすることが、目標到達につながると思う」と話されていました。また、堆肥の販売を積極的に行い、より近隣に販売していきたいと話していました。

昭悟さんに取材させていただいた中で感じたことは、近隣住民への配慮が特段にされていること。近所の保育園に畑を貸し出すなど、地域に根差した酪農を目指されており、臭いに対する配慮には頭が下がる想いです。取材当日も散歩をする保育園児や先生に明るく声を掛けられ、話をされている姿や堆肥を購入しに来た顧客に、丁寧な対応をされていたことが印象的でした。

酪農は副業で堆肥販売が本業とおっしゃられていましたが、平均個体乳量は30kgで酪農がしっかりされているからこそ、堆肥に力が注げると感じました。

今後も地域での活動を軸にますます発展されることを祈念するとともに、今回の取材に協力していただいたことに心から感謝いたします。



発酵有機質堆肥

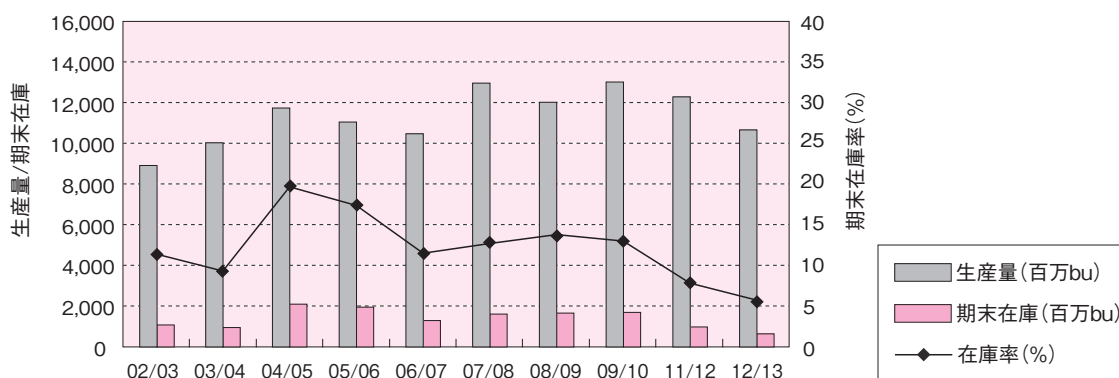


原料情勢

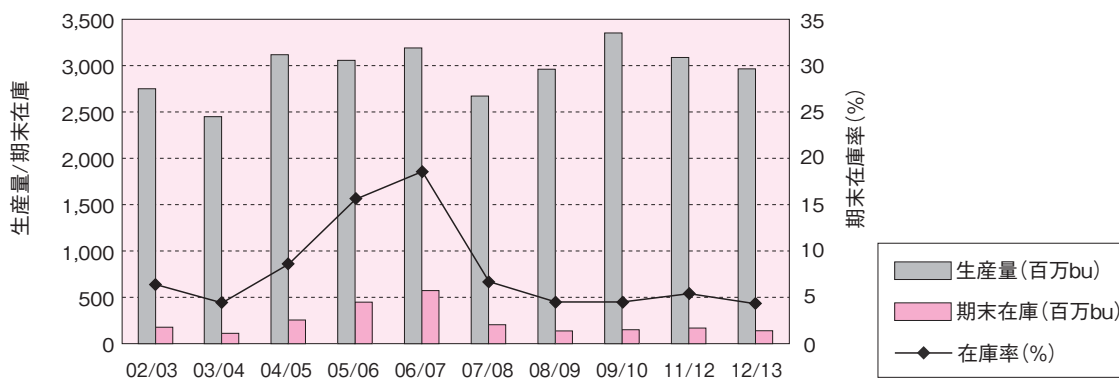
平成24年12月

12月11日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万 (123億5,800万) bu、総需要量125億2,700万 (123億2,700万) bu、期末在庫9億8,800万 (9億8,800万) bu、在庫率7.9 (7.9) %。 【12/13年産】 作付面積96.9百万(前月96.9百万) エーカー、単収122.3 (122.3) bu/エーカー、生産量107億2,500万 (107億2,500万) bu、総需要量111億6,700万 (111億6,700万) bu、期末在庫6億4,700万 (6億4,700万) bu、在庫率5.8 (5.8) %。
トウモロコシ相場動向	11月末はアルゼンチンの産地において降雨過多で作付の進捗率が大幅に遅れていることや大豆市場の上昇を背景に730～760¢台に上昇したが、輸出需要が軟調なことを背景に値を下げ、12月中旬から700¢前半で値動きをしている。期末在庫見通しは17年振りと言われる低水準となっているが、輸出需要、飼料需要の見通しが低調に推移しており、先行き不透明な情勢となっている。ブラジルの乾燥、アルゼンチンの多雨など懸念材料を抱える南米での作柄次第で上昇に転じる可能性もあり、十分な注意が必要である。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億3,000万 (1億4,000万) bu、在庫率4.3 (4.63) %。需要は増加したが予想範囲内の動きであったことからシカゴ大豆相場は大きく変動していない。国産大豆粕発生量は依然低調だが、需要も減退していると思われ、需給バランスはそれほど崩れてはいない。国産大豆粕がカバーできない需要は輸入大豆粕が補っている状況に変わりはないが、現時点では輸入大豆粕は順調に入船しており、受け渡しに問題はない。現在は弱含みで推移しているが、アルゼンチンでは多雨の影響で作付が遅れる懸念があり、今後南米が天候不順となれば米国大豆の期末在庫が少ないことから上昇基調に転じることも考えられる。
糟糖類	フスマの発生量は大きな変動がないままであるため、需給は非常にタイト。フスマがどの程度輸入されるかにもよるが、使用量が減らない限り、需給は大きく改善することはないと考える。今後の受け渡しにも注意が必要。グルテンフィードも発生量が減少している中、需要は堅調なため需給は締め気味になっている。ただし輸入は順調に推移しているため一部の港を除いては受け渡しに問題がない見込。一部の輸入品があまり流通しない地域では需給は締まったままであり、受け渡しには十分に注意する必要がある。
海上運賃	新造船の就航、欧州の経済不調による需要の低下により低調であったが、冬場の航海日数の増加による燃料費の増加、石炭需要の増加に伴い若干強含みとなっており、総じて横ばいで推移している。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年12月

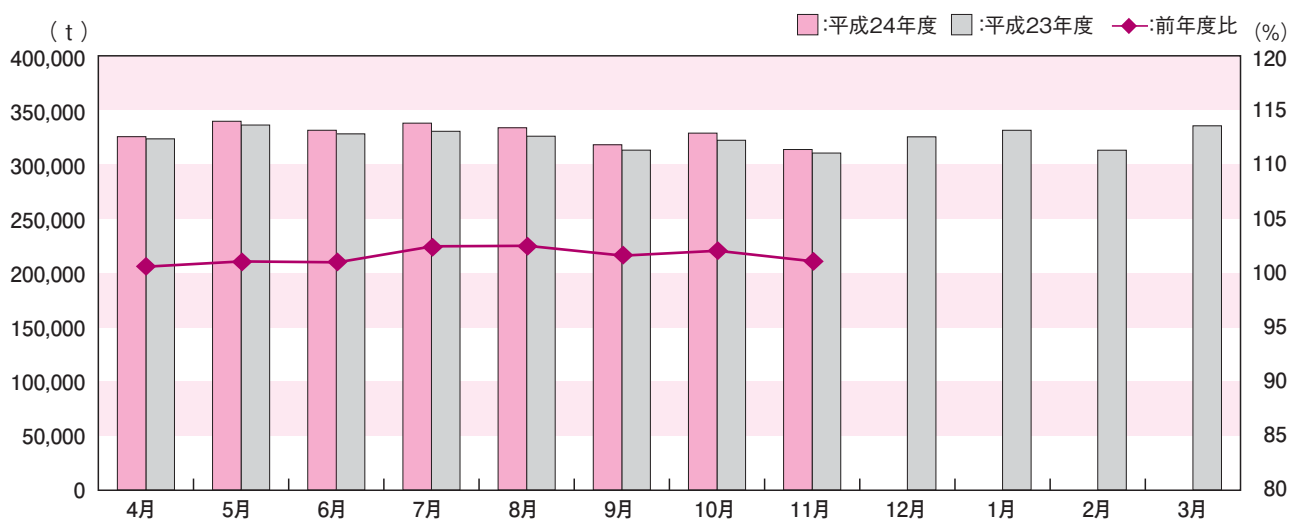
米国港湾 ストライキ について	11月27日正午から、北米西海岸で組織されるILWU（港湾倉庫労働組合）傘下のOCU（事務職員組合）によるストライキがロサンゼルス港のターミナルで始まり、その他のターミナルにも広まった。12月4日に連邦の調停者が入り暫定合意されたため12月5日午前にはストライキ解除になったが、8日間荷役作業が停止したため、混乱が続いている。食品、穀類、木材などの輸出貨物が優先される可能性もあるため、粗飼料の船積み遅れはしばらく続くことが懸念されている。また先月号でもご案内の通り、北米の東海岸のストライキも保留になったままの状況であり、協議次第では1月1日付けでの特殊チャージの導入が検討される可能性もあるため注意が必要。
ビートパルプ	【米国産】主産地であるミネソタ州とノースダコタ州はあまり早乾傾向ではなかったため、生育、収穫は順調に推移。昨年11年産よりも作柄は良いため、生産量は例年並みに回復した模様。ただし11年産の繰越在庫がなく、欧州や日本からも引き合いが増えているため、引続き高値で推移することが予想されている。 【中国産】輸出品の出荷拠点の一つである遼寧省大連市で11月下旬に口蹄疫が発生した。ビートパルプは加工品として稲ワラなどの乾牧草とは扱いが異なるため直接の影響はないと考えられるが、工場から大連港までの輸送経路や輸送方法について、日本側でも再確認を求める動きがある模様。
アルファルファ ヘイ	【フジント産】コロンビアベーンでは、1番刈は60%、2番刈は50%の雨当たり被害を受けた。2番刈から3番刈にかけては、刈取り後の乾燥中に晴天に恵まれなかったため、ノーレイン品も比較的ブリーチ（色あせ）の多いスタックが発生している。産地価格の高止まりとフレート価格差から、中国向けについてはカリフォルニア産へシフトしていると伝えられていたが、徐々にフジント産へ戻ってきているとも言われている。 【オレゴン産】クリスマスバレー、クラマスフォールズで、2番刈はともに刈取り後の乾燥中に晴天に恵まれず、比較的ブリーチの多いスタックが発生している。生産効率を考えたBIGベールでの収穫が増えたため、12年産はますます3タイのプレミアム品の確保が難しくなった。13年産以降も、さらにBIGベールでの収穫が増えることが懸念されている。 【ネバダ産】1番刈の50%、2番刈の40%が雨当たり被害を受けた。2番刈と3番刈は、生育期に暑くなりすぎず、ノーレイン品は例年に比べて葉量が多めの仕上がりとなっている。この地域では国内向けの需要が多く、近年ではUAE、中国向けにも旺盛な引合いがあるため、BIGベールでの収穫が増加した。13年産以降も、さらにBIGベールでの収穫が増えることが懸念されている。 【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、PNW産アルファルファの産地価格の高止まりとフレート価格差から、UAEや中国向けはカリフォルニア産の引合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されているとも伝えられている。輸出处と国内向けの底堅い需要を受けて、13年産は作付面積が増えることが一部では予想されている。 北カリフォルニアでも、UAEや中国向けのみならず、日本や韓国からの引合いも強まっている模様。
チモシー	【米国産】ワシントン州では、1番刈は50-60%程度が雨当たり被害を受けており、近年まれにみる厳しい状況。酪農向けの中間グレード品も馬用に向けられているため、酪農向けは中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況である。近年の順調な需要を受け、チモシーは生産コストに対して高く売れており、産地では儲かる農産物として定着しているため、13年産は作付面積が増えることが予想されている。 【カナダ産】レスブリッジでは1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したためハイグレード品は1%以下、ドライランドでも雨当たりが発生したためハイグレード品の発生量は限定的である。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて、中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況となっており、産地価格は高値で推移している。チモシーの他に、産地ではキャノーラ（菜種）などの穀類も多く作付けされている。13年産の作付面積の増減は穀類の相場価格によっても変化があると考えられる。
スーダン	【インベリアルバレー産】12年産は、かろうじて雨に当たっていないか軽く雨当たりしたスタックにも、グレードを問わず引合いが集中している。激しい雨当たり品もUAE向けに多く出荷されている模様で、産地価格が下支えされる要因となっている。したがって産地価格については、激しい降雨があった7月よりも、同じ茎サイズ・色のグレードと比較してさらに高騰して推移している。近年の順調な需要を受け、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は早播きスーダンの作付面積が増えることが予想されている。 【北カリフォルニア産】1番刈の収穫は終了しており、一部では2番刈も収穫された。収穫時期の天候については問題なく、比較的良好品が発生しており、茶葉の混入も少ない傾向である。インベリアルバレー産の状況から引合いは強まっており、産地価格も昨年よりさらに高騰して推移している。
クレイングラス	産地では、12年産の収穫が終了した。1、2番刈は良品の発生が多かったが、3番刈は雨当たり被害や刈遅れ気味となったスタックも多く、4番刈についても湿度の高い気候が続いたため、ブリーチや茶葉が多めの傾向となっている。早くから11年産の在庫もなく、3番刈以降の作柄が良くない状況下で韓国向けからの引合いも強くなっているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。12年産のインベリアルバレーの作付面積は11/15時点で前年対比113%の16,437エーカーであり、近年の順調な需要を受けて、13年産は生産量が増えることが予想されている。
ストロー類	フェスキューストロー、ライグラス（ペレニアル種）ストローはともに11年産の在庫がなく、年々減少している作付面積は今年もやや減少する結果となった。加えて自給飼料不足の影響で韓国からの引合いも強くなっているため、12年産もストロー類は引き続きタイトに推移している。中国遼寧省大連市で11月下旬に口蹄疫が発生した影響で、日本では中国産稲ワラが一時保留となっており、今後の動向次第では米国産ストロー類の引合いがさらに強まる懸念がある。
オーツヘイ	【西豪州産】10月上旬から収穫が始まり、初期の早刈り雨当たり品もわずかに発生しているが、収穫時期の天候は良好であったため、今年は雨当たり品が少なく、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.0t/haと例年よりも30%程度減少している。内陸部では単収が2.0t/ha未満と非常に少なく、収穫を諦めた圃場も多い模様。西豪州は作付面積が20%減少と言われる中で単収も少ないため、生産量は大きく減少していると思われている。 【南豪州産】西豪州同様、収穫時期の天候は良好であったため、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。11月でローグレード品以下の出荷が終了しているサプライヤーも見受けられ、中間グレード品も3-4月で不足するのでは、とも予想されている。単収は平均5.0t/haと例年よりも20～25%減少。作付面積はほとんど変わらないが、生産量は減少すると見込まれている。また、今年の特徴として、特に南豪州ではライグラスの雑草が混入しているスタックが目立つ。例年より遅い播種だった影響で雑草除去にかかる時間が少なかったこと、単収が少ない圃場ほど雑草の生育を抑えることができずに多く残ってしまったことが原因と推測される。雑草混入が目立つスタックの多くは台湾や韓国など他国向けに出荷する予定のようだが、注意は必要。 【東豪州産】ヴィクトリア州でもほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.5t/haであり、作付面積は変わらないものの生産量は減少すると見込まれている。品質については、分析値が良く過去25年で最も良い（良すぎる）作柄の年と産地では考えられている。収穫が遅い圃場で雨当たり品のローグレード品も発生しているが、国内向けからの引合いも非常に強いと言われている。

平成24年度（11月）地域別生乳生産量

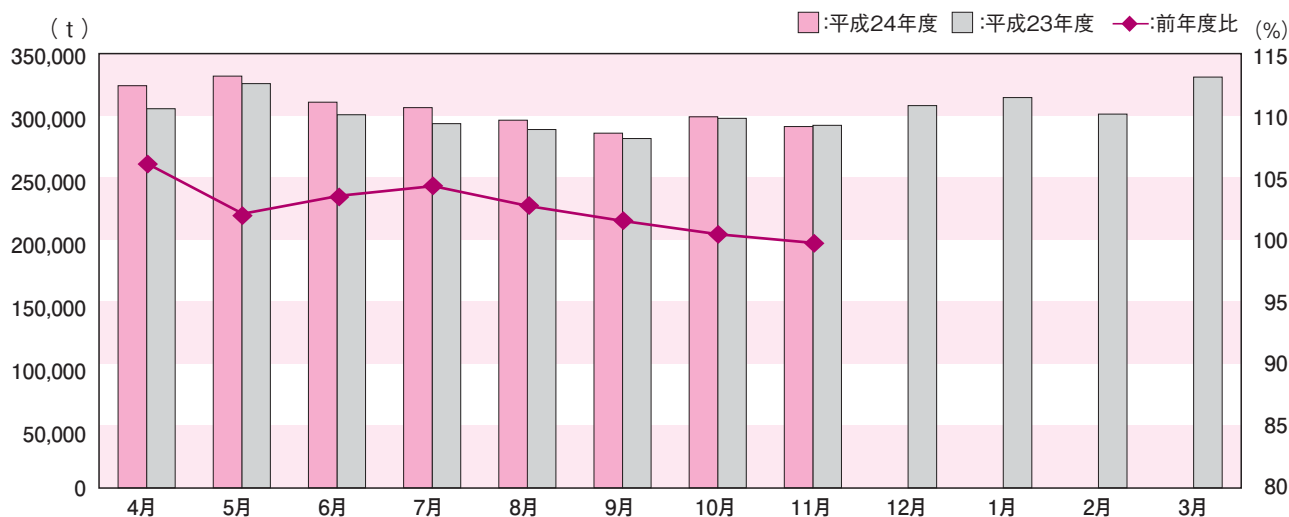
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
23 年度 11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3 月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24 年度 4 月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5 月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
6 月	642,043	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
7 月	644,196	337,854	51,884	8,548	90,654	11,038	33,415	16,758	25,390	10,975	55,312	2,368
8 月	629,828	333,599	50,211	8,130	87,907	10,950	31,827	16,191	24,820	10,636	53,274	2,283
9 月	603,727	317,951	47,759	7,919	84,415	10,377	30,866	15,292	24,164	10,399	52,368	2,217
10 月	627,633	328,673	50,249	8,156	88,420	10,801	32,598	15,853	25,128	10,881	54,617	2,257
11 月	604,696	313,586	48,193	7,946	86,110	10,496	32,053	15,461	24,356	10,741	53,559	2,195
前年同月比	100.4%	101.0%	98.2%	99.8%	99.8%	97.7%	99.5%	96.6%	100.9%	98.2%	102.0%	101.5%
24 年度 累計	5,072,868	2,627,970	407,148	67,797	723,386	87,427	267,683	133,037	204,004	89,431	446,275	18,710
前年同月比	102.0%	101.5%	106.4%	100.5%	102.3%	98.0%	101.7%	99.6%	101.9%	98.6%	103.1%	102.2%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

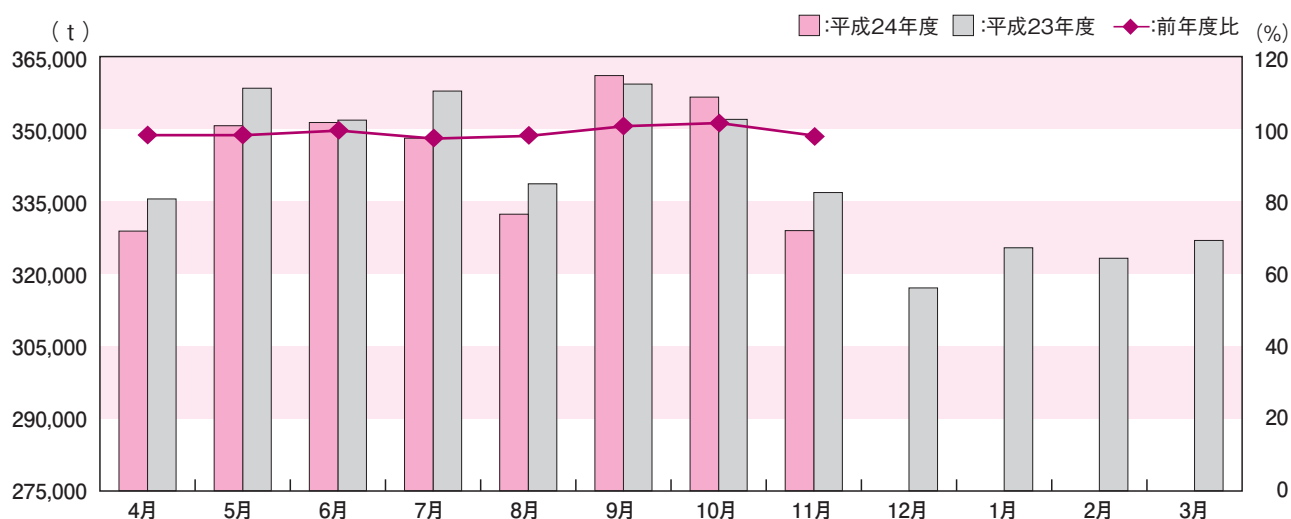


平成24年度（11月）用途別処理量

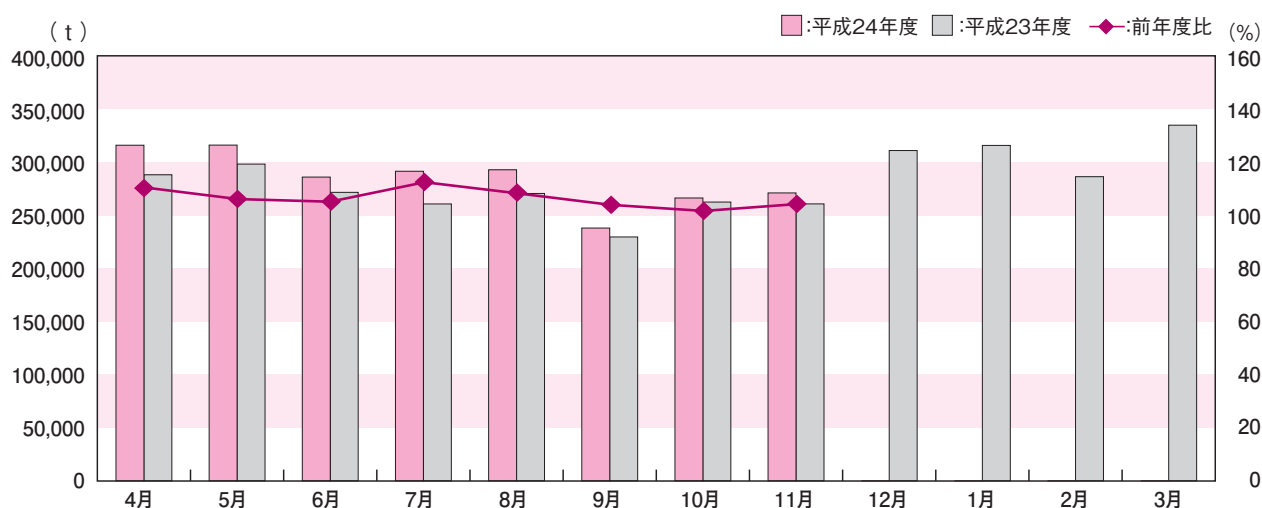
単位：t

	用 途 別 処 理 量							欠 減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	
23 年度 11 月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12 月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1 月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2 月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
3 月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038
24 年度 4 月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014
5 月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019
6 月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144
7 月	644,196	348,063	23,731	291,244	41,566	111,117	4,889	1,038
8 月	629,828	332,311	23,748	292,625	42,664	106,788	4,892	1,069
9 月	603,727	361,031	27,619	237,824	33,734	106,116	4,872	1,026
10 月	627,633	356,569	29,028	266,099	39,673	111,273	4,965	1,024
11 月	604,696	328,911	29,473	270,866	38,665	108,712	4,919	1,021
前年同月比	100.4%	97.7%	100.3%	104.0%	100.9%	100.1%	96.9%	115.2%
24 年度 累計	5,072,868	2,757,644	207,286	2,276,034	323,390	863,431	39,190	8,355
前年同月比	102.0%	98.8%	101.3%	106.3%	102.4%	103.7%	89.6%	97.4%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

全酪連 酪農セミナー2013/ワークショップ2013

開催のご案内

“強化”哺育パートⅢ ～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

全酪連は、2013年2月にコーネル大学畜産学部准教授マイク・ヴァンアンバーグ博士を講師に迎え、全国4会場にて、酪農セミナー(平成24年度)を開催いたします。前回の“強化”哺育セミナー(2007年)から5年が経過しました。この間、更に蓄積された情報を整理して紹介する予定です。また、セミナーとは別に、指導者・技術者の皆様のために最先端情報をご紹介しますワークショップも開催します。是非ご参加ください。

講師略歴

1984年
オハイオ州立大学卒
1995年
コーネル大学にて博士号取得
1995-2002年
コーネル大学畜産学部 助教授
2002年-現在
コーネル大学畜産学部 准教授



マイク・ヴァンアンバーグ博士
(コーネル大学 畜産学部准教授)

テーマ

“強化” 哺育 パートⅢ

～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

セミナー2013

第1章 哺育子牛の栄養と飼養管理技術

- ・この技術の経緯と基本技術
- ・近代までに伝統的に行われてきた栄養と飼養管理
- ・これまでに確立された技術のうち何が優れていて、何が誤っているのか?

第2章 近代的哺育・育成牛の栄養と飼養管理

～すでに NRC や CNCPS に採用されている概念

- ・ターゲット・グロース・システム
現状の牛群評価方法と到達もしくは設定すべき発育目標
- ・加速発育システム
発育時期毎の異なる栄養要求(蛋白の分解性)・乳腺発達概念の誤り
- ・“強化” 哺育システム
理論と実行方法
NRC2001が成し得た事・次の NRC はどうなる?
自動哺乳機システムの由来と考え方

第3章 “強化” 哺育の検証

- ・コーネル大学牛群 3 産目までのデータ検証
- ・健康面への効果/免疫との関連
- ・発育促進による恩恵/初産の月齢や体格
- ・より高い生産性/乳量増加効果
- ・経済性の改善/飼料効率・経費節約ほか
- ・“強化” 哺育に失敗する場合の理由いろいろ

第4章 哺育・育成栄養と飼養管理の将来

- ・最新研究開発情報・新しい栄養要求

[特別講演]

国内研究者による研究成果発表

ワークショップ2013

第1章 CNCPS の過去・現在・未来

- ・飼料計算プログラムの歴史
CPM Dairy の成し得たこと、新プログラムに比べて何が遅れているのか?
飼料計算プログラムに関する現在進行形の事項
- ・CNCPS v.6.1 とそれをベースにする AMTS・NDS の説明
違いや互換性、実用化のために必要なこと、フィードライブラリーのアップデート

第2章 哺育・育成牛

- ・現在の哺育管理の実情と未来
最新研究開発の紹介 新しい栄養要求(蛋白質・アミノ酸・エネルギー他)
- ・“強化” 哺育の検証
最新研究開発データの紹介

第3章 国内研究者による研究成果発表

- ・虚弱子牛の免疫機能改善に関する研究(酪農学園大学)
- ・“強化” 哺育を応用した肉用牛の代謝的刷り込み効果に関する研究(九州大学)

日時と場所

2月12日(火)	熊本セミナー	火の国ハイツ
2月13日(水)	神戸セミナー	ラッセホール
2月15日(金)	福島セミナー	郡山ユラックス熱海
2月18日(月)	札幌セミナー	ホテル ポールスター札幌
2月19日(火)	全酪連ワークショップ	ホテル ポールスター札幌

各会場ともセミナーの開会は 10:00、閉会 16:00 となります
(但し、ワークショップは、開会 9:30、閉会 15:00 を予定)

対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは
研究者・獣医師・コンサルタントの方々

参加費

1名様 ￥5,000(テキスト・昼食代含む)

北海道 乳牛産地情報

平成25年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で98.4%、累計で100.5%。苫小牧管内月計で97.1%、累計で98.8%の実績となっております。年明けの初妊牛の動向ですが、春分娩になりますので管内需要及び府県需要もある事から強含みの相場で取引されるものと思われます。資源的に豊富な地域ではありませんので、購買の予定がありましたら早めの連絡をお願いします。
	初妊牛	50~55	▼	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.1%、累計で101.3%、中標津管内月計で101.3%、累計で102.4%の実績となっております。1月の荷動きですが、12月中に3月分娩も動いたことから3月中旬以降の分娩牛中心に動くと思われます。3月~5月分娩牛までは育成農家が少ない当地域では、十勝地域に比べ出回り頭数が少なく、昨年末に引続き中クラスのF1腹と雌雄選別腹については、他地域よりも高値で取引されると思われます。昨年同期より他地域に比べ根釧地域の初妊牛価格は高値で推移し、また、スノ物価格も徐々に上昇しているため、2年前のような60万近い初妊牛価格になる可能性もあります。購買予定がありましたら早めのご連絡をお待ちしております。
	初妊牛	50~58	▲	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で100.4%、累計で101.2%の実績となっております。1月の初妊牛動向につきましては、年末の十勝市場で、府県と道内大型農場の購買が集中し、一気に平均価格を押し上げた結果を受けて、庭先での初妊牛価格も強含みで推移すると思われます。また、中心腹となる3~5月腹も資源が少なく、一層引き合いが強くなり、荷動きの流れもかなり早くなると思われます。F1腹と雌雄選別腹が高値で取引される傾向は依然として強く現れております。
	初妊牛	50~58	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~35	▼	道北管内の12月中旬までの生乳生産量は稚内管内月計で103.1%、累計で101.7%。北見管内月計で103.1%、累計で102.2%の実績となっております。1月の初妊牛動向ですが、3月以降の分娩中心で、各農協からの情報によりますと資源不足が明らかで、春生みの価格高騰が予想されます。12月中には資源不足を見越した導入があり、中クラス~スノ物価格が上昇しました。1月には更なる価格の上昇が予想されるため庭先購買価格も強含みで推移すると思われます。
	初妊牛	50~55	▲	
	経産牛	40~47	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は月計で101.2%、累計で101.6%の実績となっております。1月の初妊牛動向は、3月~4月分娩中心となります。資源的に少ないため需要が多いと一気に価格が高騰することも予想されます。12月の各地域の市場価格が高騰しており、1月の庭先購買は価格上昇を見込んだものになると思われますので、購買に際しては、価格、分娩月に余裕を持ってのご注文をお願いします。また今冬の北海道は雪が多いため、購買にお越しになられる方は、担当者と事前に打合せして、防寒対策もしっかりされ来道されますようよろしくお願いいたします。
	初妊牛	50~58	▲	
	経産牛	40~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

双子じゃないよ！親子だよ！

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)で優秀賞を受賞した「双子じゃないよ！親子だよ！」(福島県 木目澤 初美氏 撮影)です。顔つきがそっくりで本当に双子のようですね。今日も親子仲良くのんびり草を食んでいるのでしょうか。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼「女性は7の倍数、男性は8の倍数の年齢のときに身体に変化が起きる」と某CMで言っています。それが本当ならば、今年は体調に気を付ける年になりそうですが、負けないように頑張ります！今年も一年よろしく願いいたします。

▼ご意見・ご要望・応援等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記



平成25年1月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 1月号 No.568

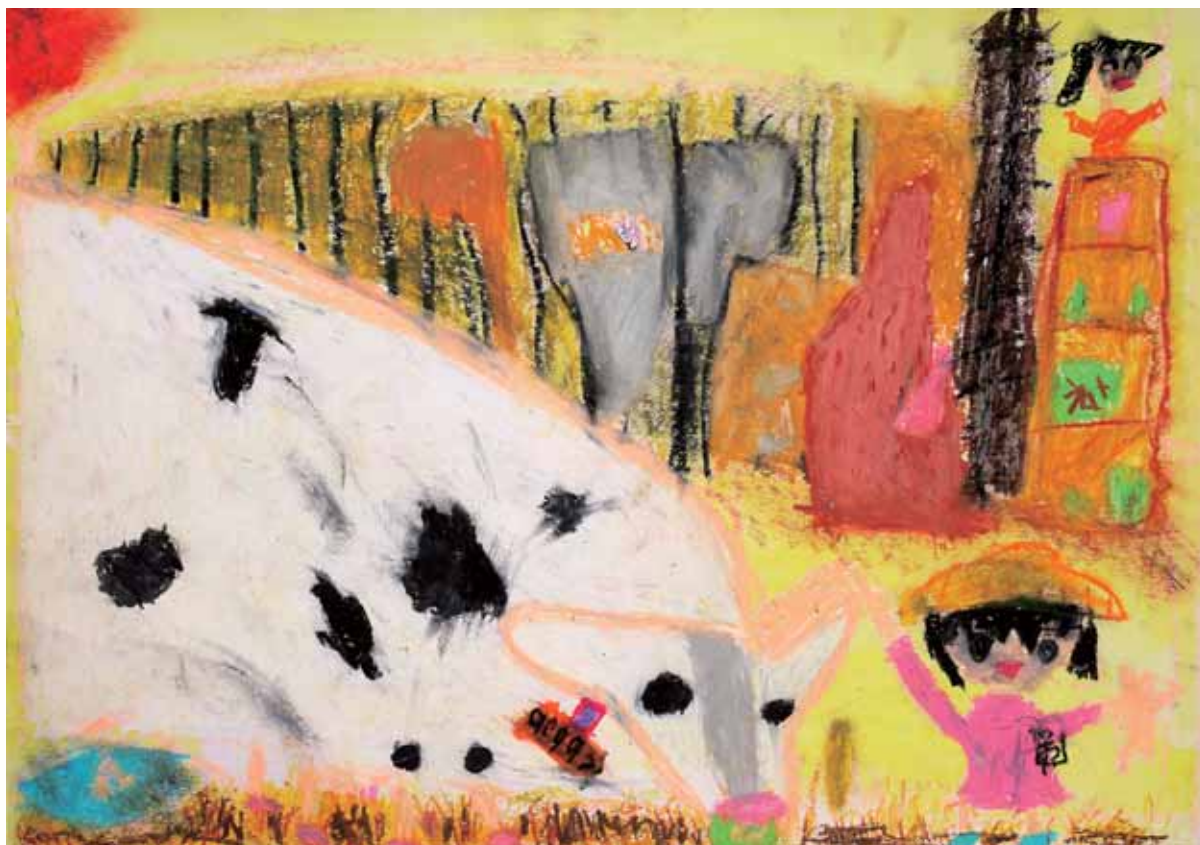
●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品紹介

モーモーうしくん

三里小学校(九州)2年 唐島 葵



月の入選作品は、三里小学校(九州)2年の唐島 葵さんの「モーモーうしくん」です。

画面全体に手が入った完成度の高い作品です。細かな部分までよく観察し、牛舎の雰囲気がよく伝わってきます。調和を感じさせる構図で、遠近感も効果的に表現されています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議